

事務局だより



第37回岩手県養護教諭研究大会 11月22日(金)

~連絡事項~

- 1 「県表彰」があります。本来、岩手県学校保健健康教育研究大会で行う表彰(県主催)ですが、東北大会との関係で、本研究大会での表彰式依頼がありました。ご理解をお願いします。
- 2 午前の部が過密日程になるため、昼食時間の短縮等が予想されます。その際は、ご理解とご協力をお願いします。
- 3 欠席の方の資料は、地区理事さんを通じて配付します。
- 4 東日本大震災支援対策委員会のブースを大ホール入口前に設置します。ぜひ、お立ち寄りください。
- 5 弁当注文の受付は、9:40までとなります。(昼食時の注文はできません。) 空箱の返却は、13:20までに弁当受付へお願いします。
- 6 昼食会場は、大ホールのみになります。飲料水は、紙パックの水かお茶のみとなります。(厳守)
- 7 書籍の販売と物品展示は、13:30までとなります。
- 8 「非常災害時のマニュアル」に従って、的確な対応をお願いします。
- 9 大会アンケートの記入と提出をお願いします。出口付近に回収箱を設置します。

おめでとうございます

祝「学校保健功労者表彰」受賞 菊池博美 先生

- 岩手県学校保健会養護教諭部会 前会長
 - 平成25年11月22日(金) 第37回岩手県養護教諭研究大会 席上にて表彰予定
- ※本部会より、感謝とお祝いの意を込めた祝花をお届けします。

「養護教諭の専修免許取得に関わる調査」ご協力をお願いします

- 詳しい調査趣旨、内容は、研究大会でお知らせします。ご協力をお願いします。
- 提出しめきり：会員 ■地区理事 12月6日 ■常任理事 12月13日 ■県事務局担当 12月20日 (厳守)

第44回全国学校保健・学校医大会日本医師会長表彰 受賞祝賀会

- 受賞者 岩手県学校保健会養護教諭部会 前会長 川嶋範子 先生
 - 日時 平成26年1月11日(土) 11:30~13:30
 - 申ししめきり 12月7日(金) *詳しくは、研究大会でお知らせします。
- ※多くの会員の皆様の出席をお待ちしております。

■ 部会HP「ようご岩手」 <http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>

宮城県学校保健会養護教諭部会 「東日本大震災直後の保健室」一改訂版— 冊子の寄贈がありました。 本会HPに掲載予定。

■ 日本養護教諭養成大学協議会 発行

「日本養護教諭養成大学協議会事業活動報告書 2012」

本会に冊子の寄贈がありました。

東日本大震災支援対策委員会 10月の活動より

東日本大震災支援対策委員会では、10月25日(金)に中沢会長とともに県立宮古水産高等学校と県立宮古北高等学校を、10月30日(水)に宮古市立崎山小学校と宮古市立第一中学校を訪問しました。宮古市立第一中学校の訪問では、宮古小学校、田老第一小学校、小国小学校、宮古第二中学校、河南中学校の先生方も一緒にお話を伺いました。たくさんお話を聞かせていただき、皆さまに感謝いたします。以下、訪問で聞かせていただいた内容のうち、現在の生徒の様子や学校の様子等について少し紹介させていただきます。



車窓から(山田湾)



～崎山小学校～
保健室から眺める校庭、現在仮説撤去工事中

☆☆☆ 小学校の先生方から ☆☆☆

- ・この頃になって、心の内を表現する子どもたちが出てきた。対して一生懸命で立派すぎる子どももいる。子どものサインを見逃さないようにと教職員で確認している。
- ・医療費の補助が子どもによって違うため、スポーツ振興センターの手続きは個々に確認が必要となり多くの時間を費やしている。また、給食会計事務も多くの時間がかかる。
- ・新入生入学時、保護者に震災当時や現在の状況を記入してもらい、把握に努めている。
- ・人事異動によって震災を経験した職員は減少傾向にある。職員の気持ちをどう引き継いでいけばいいか課題。

☆☆☆ 中学校の先生方から ☆☆☆

- ・小学校高学年からの携帯電話所持率が高くなっており、中学校での携帯トラブルが心配されている。
- ・震災直後にはなかった気持ちの荒れを表す生徒が出てきた。
- ・不登校の児童生徒があり、学校として取り組んでいる。
- ・文化祭等では生徒教師一丸となって活動し地域に感動を与えられた。
- ・養護教諭同士の横のつながりを大切にしたい。
- ・誰がここに来てもいいように対応できる「マニュアル」作りが必要だ。



☆☆☆ 県立高校の先生方から ☆☆☆

- ・養護教諭の複数配置が進むことを希望する。数字を出して具体的な状況を示すことが必要だと思う。
- ・県などで企画する研修会が沿岸で行われることが多いが、沿岸沿いを移動するのは不安な人が多い。できれば会場を内陸にしてほしい。
- ・生徒の中では津波注意報が出た際にパニックになる生徒もいる。避難先に個別対応できる場所を提供してもらい対応している。
- ・不安や過呼吸になる女子生徒が多い。カウンセラーも利用しているが、不在の時間が多く養護教諭が対応することが多い。また、女性カウンセラーもお願いできたらと思う。
- ・震災以降、防災委員長である保健主事が全職員へ学校防災のアンケートを実施した。防災体制の見直しを行うことができた。
- ・緊急時、避難するためには地域との連携が必要。学校と地域が連携できるよう取り組んでいる。職員も周知し、連携を図っている。



県立宮古水産高等学校
～緊急時避難グッズ～
津波の際、流されないよう非常口に近い階段踊場に設置する工夫をしている

実際に学校を訪問させていただき、直接見聞きできたことから感じることも多くありました。特に『養護教諭としての横のつながりを大切にしたい』という話が印象的でした。震災当時の連絡手段の大変さから、いざというときの孤立や不安を少しでも解消できるようにするための準備が望まれるのだろうと感じました。

(文責:本委員会委員長 岩崎紀子)